

氏 名 能谷 雅文  
学位の種類 博士 (医学)  
学位記番号 乙第255号  
学位授与年月日 平成19年7月4日  
審査委員 主査 教授 田中 恒夫  
副査 教授 本間 良夫  
副査 教授 宮崎 康二

### 論文審査の結果の要旨

海外では切除断端に癌が露出した症例を断端陽性と定義しているが、日本乳癌学会のガイドラインによれば切除断端より5 mm以内に癌が存在する場合には断端陽性としている。日本の定義にそった断端陰性例の乳房温存術後におけるブースト照射の効果を検討した報告はこれまでにない。そこで、著者らは1987年7月より2002年8月までに乳房温存術が施行され stage I-II乳癌 137例について検討した。全症例が日本の定義による断端陰性例であり、術後に温存した乳房に50 Gyの照射が行われた。対象例を10 Gyの電子線でブースト照射した79例 (Boost群) と追加照射をしなかった58例 (非Boost群) に分けて予後因子を検討した。5年局所再発率はBoost群で1.61%、非Boost群では1.91%であり、Boost群の局所再発率は非Boost群に比べて減少傾向がみられたが有意差はなかった ( $p=0.07$ )。単変量、多変量解析による検討では両群間に有意差がみられた因子はなかった。また、両群とも重篤な合併症や皮膚障害は認められなかった。10 Gyのブースト照射は5 mm以上の断端陰性を確保した stage I-II乳癌に対する乳房温存術後の局所再発率を低下させる可能性がある。最終的な結論を得るためには大規模な randomized control studyが必要である。